

令和4年度 推進支援金の検証・評価について

令和4年度 市町村別 森林づくり推進支援金事業総括表

1	小諸市	1 P
2	佐久市	3 P
3	小海町	5 P
4	佐久穂町	7 P
5	川上村	11 P
6	南牧村	15 P
7	南相木村	17 P
8	北相木村	19 P
9	軽井沢町	21 P
10	御代田町	23 P
11	立科町	25 P

(別記様式第15号)

令和4年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

小 諸 市

No.	事業項目	事業名
1	「みんなの暮らしを守る森林づくり」に関する事業	小諸市松くい虫被害防除特殊伐採補助事業
事業費 1,310,000円 (うち支援金: 1,224,000円)		

事業目的

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

先端地域を中心に松くい被害木が確認できる。特に、建物、墓地及び道路付近の赤松が被害に遭っている。

(2) 本事業の目的

(1)の課題への対応方向について記載)

平成21年度より当事業を活用することで土地所有者が実施する枯損木の駆除に対して補助制度を設け、市全体の松くい虫防除対策の促進を図ってきた。

令和3年度の当事業実績は、件数46件、処理本数119本、総事業費477万円に及び、松くい虫被害の防除対策という事業の目的はもとより、二次被害の防止効果や土地所有者に対する所有地管理意識向上の啓発効果が期待できる。

事業内容

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所：市内全域

(2) 対象者：松くい虫被害による枯損木が存する市内の宅地または墓地等を所有または管理する者。

(3) 実施方法：松くい虫被害木の伐倒処理を業者に委託する費用に対し補助を行った。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画（平成30～令和4年度）

各年度 処理本数400本 補助金予算額4,000,000円

②令和4年度実績

処理本数120本 補助金額1,310,000円

事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

松くい被害木の倒木による二次被害防止。

(2) 継続性

松くい被害木が存在する限り、継続する必要性あり。

(3) 普及性

引続き補助事業を継続することで市内の美しい松林景観の造成を図る。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

当事業では、松くい被害枯損木の処理に対して補助制度を設けることで、2月28日時点で46件、119本に及ぶ処理を実施した。このことは、台風シーズンを迎える前に松くい被害木を早期に伐倒処理することにより、倒木による二次的被害を未然に防止する効果が絶大であった。また、土地所有者に対する啓発効果もあり、所有地管理意識向上が図られた。さらには、477万円を超える総事業費が管内の林業事業体にもたらす効果(雇用等)も事業評価の一端である。

(2) 課題

アカマツの多い千曲川以西の地域、東御市境や佐久市境で被害が甚大になっており、市内にも被害地が拡大し、その先端も標高1000m地点に迫っている。被害木が広範囲に広がっているため、全てを駆除することが困難な状況である。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

予算規模は縮小方向となるが、被害木の倒木による二次的被害を未然に防止する効果はもとより、土地所有者に対する所有地管理意識向上の啓発を図る。目的からしても、来年度以降も本事業を継続することで、市内の美しい松林景観の造成に寄与したいと考える。

事業内容を見直して継続する

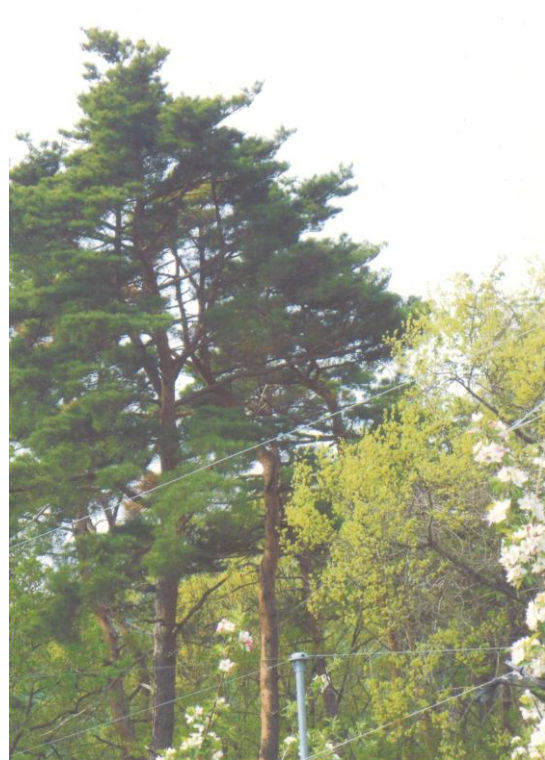
(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)



伐採前



伐採後

(別記様式第 15 号)

令和 4 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

佐久市

No.	事業項目	事業名
1	みんなの暮らしを守る森林づくり	松くい虫防除事業 伐倒・くん蒸業務
事業費 2,893,000円 (うち支援金: 2,748,000円)		

事業目的

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

松くい虫被害が拡大しており、急激な被害拡大の防止が課題となっている。

(2) 本事業の目的

国の補助対象とならない箇所につき、被害木の伐倒・くん蒸を実施することで被害の拡大を防ぐ。

事業内容

(1) 実施場所 佐久市全域

(2) 対象者 市民等

(3) 実施方法 被害木の伐倒・くん蒸

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成30年度～令和4年度)

2,714 m³ (佐久市内全域)

②令和4年度実績

佐久市内全域、うち森林づくり推進支援金 113 m³、他、市単独事業で 105 m²実施



事業効果

(1) 事業実施の効果

松くい虫被害拡大の防止が図られる。

(2) 継続性

継続して松くい虫防除事業を行うことにより、急激な被害拡大を抑制できる。

(3) 普及性

区の要望に基づき被害木の伐倒・くん蒸を行うことで、地域住民に事業効果を実感してもらえる。

事業の検証及び評価

(1) 目標に対する成果の状況

現地調査の結果、当初計画よりも被害木が少なかったため、事業量を 156 m³から 113 m³に減らした。

(2) 課題

事業の実施により、急激な被害拡大は抑制されているが、未被害地域への被害拡大を防ぐため、今後も事業の実施が必要である。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

事業内容(4)事業目標及び当年度事業量①全体計画に基づき、来年度以降も引続き事業を実施していく。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(別記様式第 15 号)

令和 4 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	小海町
------	-----

No.	事業項目	事業名
1	「森林を支える豊かな地域づくり」に関する事業	緩衝帯整備事業
事業費 979,000 円		(うち支援金: 894,000 円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

町内人工林の大部分はカラマツであり、伐期を迎えつつある。

手入れがなされていない山林が多く、ニホンジカなどの格好の住処となっている。

ニホンジカなど有害鳥獣の駆除を進めているが、未だ農林業被害の発生は続いている。

(2) 本事業の目的

耕作農地周辺の立木を伐採し、緩衝帯を整備することで、有害鳥獣による農林業被害を抑止する。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 小海町大字小海 本村・小海原地区

(2) 対象者 本村・小海原地区住民

(3) 実施方法 伐採

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30～令和 4 年度)

2.5ha 緩衝帯整備

②令和 4 年度実績

L=200m 緩衝帯整備



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

緩衝帯の整備により学校周辺・農地、道路への有害鳥獣の侵入、農林業被害を抑止できる。

(2) 継続性

本事業による緩衝帯の整備後、継続的に草刈等を実施することにより緩衝帯機能の維持を図る。併せて周辺地域の緩衝帯整備を進めていく。

(3) 普及性

緩衝帯整備により明らかに有害鳥獣の侵入が抑止されるものと考えられるため、他地域での導入が図られる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

緩衝帯の整備によりニホンジカを目撃情報が少なくなったため、交通事故発生の予防が図られた。

本年度事業目標(L=200m)は達成されたので、引き続き全体計画(平成30～令和4年度)2.5ha緩衝帯整備を進めていく。

(2) 課題

緩衝帯の整備は樹木の成長により年々その効果が薄れていくため、地域住民の協力を得ることにより効果の維持に努める必要がある。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

引き続き、全体計画(平成30～令和4年度)2.5ha緩衝帯整備の整備を進め、住宅地等への有害鳥獣の侵入を抑止していく。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

令和 4 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

佐久穂町

No.	事業項目	事業名
1	みんなの暮らしを守る 森林づくり	松くい虫被害枯損木発見等立木調査業務
事業費		1,023,000 円 (うち支援金: 1,023,000 円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

松くい虫の被害は年々拡大しており、佐久穂町も被害地域内に位置している。

このまま被害が拡大すると、佐久穂町以南のマツタケ産地である小海町や北相木村、南相木村にも被害が及ぶ可能性が高い。

(2) 本事業の目的

被害木を早期発見し、伐倒駆除等の効果的な総合防除を行い、拡大する被害を防止し、守るべき松林を守ることを目的とする。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 佐久穂町内全域

(2) 対象者 佐久穂町民

(3) 実施方法

被害木早期発見のための調査を林業業者へ委託し、実施した。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30～令和 4 年度)

佐久穂町内全域の被害木発見等立木調査を毎年度実施する。

②令和 4 年度実績 佐久穂町内全域の被害木発見等立木調査を実施した。

事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

被害木の早期発見により、佐久穂町内へ拡大する被害を防止するとともに、近隣市町村への拡大を防止することができた。

(2) 継続性

被害木の調査により、早期発見し、被害拡大を防止するとともに、佐久穂町内の被害状況や拡大状況を把握することで今後も早期の対応をしていく。

(3) 普及性

被害木を調査し、所有者にお知らせすることで松くい虫被害について知ってもらい、防除の必要性や環境への影響、松林の適切な管理の重要性を知ることで被害防止の一助を担ってもらえることができる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

被害木の調査により、被害木を早期発見することで伐倒駆除につなげることができた。また、佐久穂町内の被害状況や拡大状況を把握することができ、今後の対応につなげていく。

(2) 課題

松くい虫の被害は年々拡大傾向にあるため、早期発見による伐倒駆除が必要となる。そのため今後も調査業務を行い、松くい虫被害の拡大防止を図っていく必要がある。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

実施場所 佐久穂町内全域

実施方法 佐久穂町内全域の被害木発見等立木調査を実施する。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

令和4年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

佐久穂町

No.	事業項目	事業名
2	みんなの暮らしを守る 森林づくり	松くい虫被害防除対策業務
事業費		356,400 円 (うち支援金: 41,000 円)

事業目的

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

松くい虫の被害は年々拡大しており、佐久穂町も被害地域内に位置している。

このまま被害が拡大すると、佐久穂町以南のマツタケ産地である小海町や北相木村、南相木村にも被害が及ぶ可能性が高い。

(2) 本事業の目的

被害木も早期発見し、伐倒駆除等の効果的な総合防除を行い、拡大する被害を防止し、守るべき松林を守ることを目的とする。

事業内容

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 佐久穂町内全域

(2) 対象者 佐久穂町民

(3) 実施方法

県が交付する補助金等の交付対象事業(松林健全化推進化事業等)の対象外となる被害木の伐倒駆除を林業事業者へ委託し、実施した。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画(平成30～令和4年度)

県の補助金交付対象外の箇所において伐倒駆除を実施予定。

②令和4年度実績 伐倒数6本(12m³)



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

被害木の伐倒駆除により、佐久穂町内へ拡大する被害を防止するとともに、近隣市町村への拡大を防止することができた。

(2) 継続性

集団的かつ継続的に発生している松くい虫被害に対して、被害木の伐倒駆除を継続することにより、拡大する被害を最小限に抑え、維持することができた。

(3) 普及性

被害木は松林の中では目立つものであり、伐倒駆除により事業実施の効果を知らせることができる。また、所有者へお知らせをすることで松くい虫被害について知ってもらい、防除の必要性や環境への影響、松林の適切な管理の重要性を知ることで被害防止の一助を担ってもらうことができる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

これまでは県が交付する補助金等の交付対象事業の対象となる被害木のみを伐倒駆除を行っていたが、本事業により県の補助金交付対象外となる被害木についても伐倒駆除を行うことができた。それにより被害拡大防止に向けて、より一層の効果を発揮することができた。

(2) 課題

松くい虫被害は年々拡大傾向にあるため、今後も被害木の増加が懸念される。引き続き伐倒駆除により被害拡大防止を図っていく必要がある。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

事業実施見込み：伐倒数 20 本

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

令和 4 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

川上村

No.	事業項目	事業名
1	森林を支える豊かな地域づくり	カラマツ木育事業
事業費		1,569,402 円 (うち支援金: 1,080,000 円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

- ・カラマツを中心とした 50 年以上の人工林は成熟期を迎え、伐って利用する時期となっている。そのため、よりカラマツ材の利用促進を図る取組が必要です。
- ・林業生産活動の停滞による林業従事者の減少により、森林の保全、木材の安定供給に影響を及ぼす懸念があります。

(2) 本事業の目的

- ・児童に対して、カラマツ材利用の大切さや村の産業を支えた林業、木材に興味をもってもらうための体験学習の場を設ける。また、本事業で植栽した立木を保護するため、鳥獣被害防止柵を整備する。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

- (1) 実施場所 別添「カラマツ木育事業実績」のとおり
- (2) 対象者 別添「カラマツ木育事業実績」のとおり
- (3) 実施方法 別添「カラマツ木育事業実績」のとおり
- (4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30～令和 4 年度)

カラマツの苗作りから始まり、植栽、間伐、加工という林業の一連の流れを小学生に体験してもらう。

②令和 4 年度実績

- ・しいたけの植菌・カラマツの苗作り、植栽、間伐体験、コースター作り、椅子作り

事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

児童に森林や木に触れ合う機会を提供することで、親しみや理解を深めてもらうとともに、森林の役割やカラマツ材をはじめとした様々な木材の特徴を伝えることができる。

(2) 継続性

種まき→植栽→伐採→加工という林業の流れを、小学校3年生から6年生まで毎年異なるテーマで実施し、森林の保全や利用促進のための取組を多くの児童に伝えられる機会となる。

(3) 普及性

本事業を通して林業に関心を持った児童が、将来林業に携わる仕事に就くことを期待している。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

- ・本年度は合計100名あまりの児童がテーマ毎の木育事業を体験した。
- ・当村の森林の歴史や現状について理解を深めることができた。
- ・カラマツ材の良さ、利用する大切さを学ぶことができた。

(2) 課題

- ・中学生を対象とした林業教育の充実を図る必要がある。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

- ・今後も目的達成のために、引続き小学生を対象とした木育事業を実施する。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

1 しいたけの植菌



2 苗づくり



3 植栽



4 間伐体験



5 椅子づくり



6 コースター作り



7 野生鳥獣侵入防止柵設置



令和 4 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	南牧村
------	-----

No.	事業項目	事業名
	「森林を支える豊かな地域づくり」に関する事業	緩衝帯整備事業
事業費 5,000,000 円 (うち支援金: 684,000 円)		

事業目的

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

南牧村内では民有林が多く、カラマツが多くを占めている。カラマツの価格高騰等により林業への関心が高まっているが、未だ手が施されていない森林が多く残っている。そのため、道路沿線に木が鬱蒼としており、鹿等の飛び出し事故が多発している。また、日当たりが悪く、冬の時期は道路に積もった雪が溶けにくく危険。

(2) 本事業の目的

緩衝帯整備を行い、鹿等が道路に飛び出しにくい環境づくりを行う。

事業内容

(1) 実施場所

南牧村 大字 広瀬 県道梓山海ノ口線

(2) 対象者

民有林所有者

(3) 実施方法

道路沿線の木の伐採を行う。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成30年度～令和4年度)

村道海尻芦平線 沿線 (L=590m)

県道梓山海ノ口線 沿線 (L=1,800m)

村道野辺山平沢線 沿線 (L=1,270m)

②令和4年度実施

県道梓山海ノ口線 伐採延長 L=400m



事業効果

(1) 事業実施による効果

道路沿線の緩衝帯整備を行う事により、運転手からは見通しがよく、しかも緩衝帯があることにより、鹿等の野生鳥獣が飛び出しにくくなる。また、所有者が独自で更新（伐採・植栽）をすることにもつながった。

(2) 継続性

樹木を伐採すれば、後年は比較的軽微な草刈り作業のみで、継続的に緩衝帯を維持することができる。

(3) 普及性

緩衝帯を整備することで、地域住民が運転しやすく鳥獣等との事故を抑制できる。

事業の検証及び評価

(1) 目標に対する成果の状況

道路沿線の伐採によって、とても見通しのいい道路となった。観光客も通る主要幹線道路であるので、費用対効果はとても高いものであった。

(2) 課題

実施箇所の一部で東日本旅客鉄道株式会社（JR）との協議・誘導員が必要となり、計画より着手が少し遅れた。実施年度の前年度に現地や検討事項を事前確認しておく必要がある。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

今年度と同様に別路線の緩衝帯整備を行い、見通しのいい道路としていく。

事業内容を見直して継続する

事業を継続しない

(別記様式第 15 号)

令和 4 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

南相木村

No.	事業項目	事業名
1	木を活かした力強い産業づくり	木資源活用推進事業
事業費 640,200 円 (うち支援金:		532,000 円)

事業目的

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

本村の人工林は、偏った齢級構成のまま成熟期を迎え、計画的な更新により森林資源の持続的安定供給が可能な森林造成と森林資源の有効活用が課題となっている。

(2) 本事業の目的

近年は村産カラマツを使用した村営住宅の建設及び県内産カラマツを使用した木製品を公共施設に設置して県産材の活用普及を図ってきた。

今年度計画している立原高原は、南相木村の数少ない観光地で6月にはつつじ祭りを毎年開催している。地域住民以外の方々が多く訪れる場所となっており、昨年に続き県産材を使用した木製品を使用し県産材の更なる活用普及を図ることを目的とする。

事業内容

(1) 実施場所 立原高原

(2) 対象者 地域住民及び来村観光客

(3) 実施方法 老朽化した木製手摺の改修工事を行い、地域住民や来村者に県産材を使用した木製製品を直に触れてもらい解説パネル等で普及啓発を図る。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30 ~ 令和 4 年度)

県産材で製作した木製品設置 20 基

②令和 4 年度実績

立原地区 立原高原 木製手摺改修工事



事業効果

(1) 事業実施による効果

(事業目的に対応する効果について記載)

木質製品を設置し、身近に感じていただくことで地域住民や来村者が木質製品に親しむことができ、村産材を活用した製品の需要の創出が期待できる。

(2) 継続性

(事業又は事業効果の継続性、発展性について記載)

村内公共施設に木質製品を増やすことで、村内で木を使うことが常用的となり、更に木質製品の波及効果が期待できる。これにより村内での木材需要の拡大につなげて行く。

(3) 普及性

(事業の効果が県民等の目に見える形で発現されるものであることについて記載)

地域住民や来村者が多く利用する村内公共施設を木質化することで、多くの方が実際に木製品に触れ、解説パネル等を通じて事業について知ることができる。

事業評価と今後の取組

(1) 目標に対する成果の状況

平成30年度から令和4年度の全体計画は木製品の設置20基で、このうち平成30年度に6基、令和元年度に6基、令和2年度6基の木製ベンチの設置と本年度、木製手摺の改修を一か所行った。本年度は、村外の方も多く利用する観光地に設置したため村内外共に興味をもってもらえる事ができた。

(2) 課題

ウッドショックによる国産材の需要増加という追い風もあり地域住民及び村外者からの来村者に木質製品に興味を持ち親しんでもらえる事ができた。カラマツの木材はまだ認知度が低いことがわかったので地域住民や村外者にカラマツ材の魅力を発信できるようなPRを検討する必要がある。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

地域住民に興味を持ってもらう事が出来たため、来村者に興味を持ってもらうように検討する。

事業内容を見直して継続する

事業を継続しない

令和 4 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

北相木村

No.	事業項目	事業名
1	森林を支える豊かな地域づくり	緩衝帯整備事業
事業費		1,320,000 円 (うち支援金: 617,000 円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

- ・農業は北相木村の基幹産業であり、獣害対策に重要な役割があります。猟友会の活動により年間 500 頭程のシカ・イノシシを駆除していますが、減少傾向にあるものの毎年農業被害が発生しています。
- ・また、鳥獣の道路や宅地への侵入も発生しており、通行の安全及び住民生活の安全を確保することが必要になっています。

(2) 本事業の目的

(1) の課題への対応方向について記載)

- ・畑に隣接した緩衝帯を整備して野生鳥獣の被害防止を進めたい。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 北相木村白岩地区

(2) 対象者 村民

(3) 実施方法

- ・倒木等の処理や緩衝帯の整備

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (令和 4 年度)

- ・令和 4 年度 (白岩地区)

②令和 4 年度実績

- ・北相木村白岩地区

面積: 0.4ha (延長 200m×幅 20m)



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

- ・緩衝帯を整備することで、村民の生活の安全確保や農業被害を守ることが出来る。

(2) 継続性

- ・鳥獣被害予防のための緩衝帯整備を進め、農業被害や森林被害の予防に継続的に取り組んできた。

(3) 普及性

- ・農林家が緩衝帯整備に興味を持ち、自発的な緩衝帯整備の実施につなげる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

- ・緩衝帯を整備することで、村民の生活の安全確保や農業被害を守ることが出来た。
- ・R4年度に周囲の森林(国有林)の森林整備も実施されたため、加和志パイロット地区全面の緩衝帯整備を進めることができた(緩衝帯未整備エリアが出来なかった)。

(2) 課題

- ・緩衝帯整備実施の数年後にはヤブなどが繁茂してしまうため、地域住民等による定期的な緩衝帯の整備が必要になる可能性がある。

(3) 今後の取組方向

- 事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

- ・地域住民と連携した緩衝帯整備を継続的に実施していきたい。

- 事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

- 事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(別記様式第 15 号)

令和 4 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

軽井沢町

No.	事業項目	事業名
1	森林を支える豊かな地域づくり	緩衝帯整備事業
事業費		1,292,500円 (うち支援金: 957,000円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

住宅地の周辺を囲む民間の森林(別荘地)は適切な管理がされていない箇所があり、藪の深い場所では野生動物が潜みやすい環境となっている。

(2) 本事業の目的

野生動物の被害防止のため緩衝帯整備として森林整備を行う。見通しの良い環境を整備することで、住居エリアへの侵入を防ぎ、野生動物の潜みやすい場所を解消することが出来る。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 軽井沢町内(塩沢区)

(2) 対象者 軽井沢住民(塩沢区)

(3) 実施方法 草刈り機使用(藪刈り、刈り倒し)面積 13,000m²
道路より奥行10m以内の範囲

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画(平成30年～令和4年度)

平成30年度(大日向地区) 11,500m²

令和元年度(古宿地区) 11,000m²

令和2年度(千ヶ滝中区、離山区) 11,000m²

令和3年度(上発地区) 11,000m²

令和4年度(塩沢区) 13,000m²

②令和4年度実績 軽井沢町内(塩沢区) 13,000m²



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

緩衝帯整備事業の刈り払いを実施することで住居エリアへの侵入を防ぎ、野生動物の潜みやすい場所を解消することが出来る。

(2) 継続性

住宅エリアへの野生動物の侵入を予防するため、今後も計画的に進めていく。

(3) 普及性

藪刈り実施の承諾を所有者から得ることにより、藪を放置すると野生動物が潜む可能性があることを啓発出来る。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

民有地の藪刈りを実施することで見通しが良くなり、野生動物の潜みやすい場所を解消することが出来た。

(2) 課題

実施箇所で刈り取れない植栽があると、一部で見通しが良ならない場所が生じる。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

住居エリアへ野生動物の侵入を防ぐため、対象となる地区について藪刈りを計画的に実施していく。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(別記様式第 15 号)

令和 4 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

御代田町

No.	事業項目	事業名
1	「みんなの暮らしを守る森林づくり」に関する事業	御代田町松くい虫被害防除対策事業
事業費		827,970 円 (うち支援金: 676,000 円)

事業目的

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

平成 21 年度から町内においてマツ材線虫病 (以下「松くい虫」という。) による赤松の立ち枯れの被害が広がっている。

(2) 本事業の目的

松くい虫被害木の伐倒駆除を実施し、被害拡大の抑制に努める。

事業内容

(1) 実施場所: 町内全域

(2) 対象者: 森林外の松くい虫が生じているところ

(3) 実施方法: 松くい虫被害木の伐倒駆除

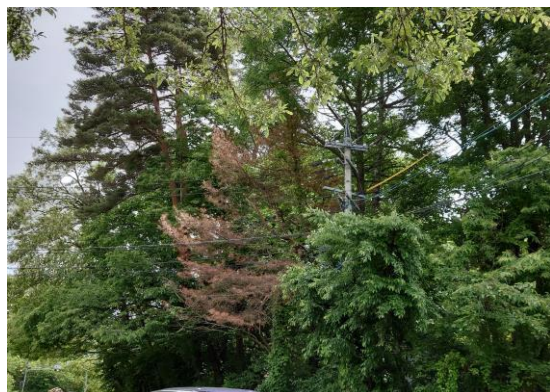
(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30~令和 4 年度)

40m³×5 か年=200m³

②令和 4 年度実績

16m³



事業効果

(1) 事業実施の効果

松くい虫被害拡大の抑制。

(2) 継続性

松くい虫対策を行うことで、倒木による二次被害から住まいや農地を守ることができる。

(3) 普及性

松林の美しい景観を保持することができる。

事業の検証及び評価

(1) 目標に対する成果の状況

松くい虫被害木の伐倒駆除により被害拡大の抑制につながり、道路から見える赤松林の景観形成ができた。

(2) 課題

松くい虫による被害の最先端地域として軽井沢町へ被害が広がらないよう対応しているが、被害木は毎年発生しているため、今後も伐倒駆除が必要である。また、被害が拡大するようであれば他の補助事業も含めた防除事業全体を見直し、樹種転換、樹幹注入、空中散布等も検討していく。

(3) 今後の取組方向

■事業を現行どおり継続する

来年度以降も継続して実施していく。

事業内容を見直して継続する

事業を継続しない

(別記様式第 15 号)

令和 4 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

立科町

No.	事業項目	事業名
1	「みんなの暮らしを守る森林づくり」に関する事業	立科町松くい虫防除伐採補助金
事業費 374,000 円 (うち支援金: 374,000 円)		

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

立科町の里地区の森林はアカマツ林が多く、松くい虫被害を受け個人所有者は大変苦慮しているところである。

また、山林に隣接している墓地などへ被害が拡大している。

(2) 本事業の目的

山林以外等のアカマツが松くい虫の被害にあっていることで、被害木の倒木による二次被害を防止するため。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

- 実施場所 立科町内一円
- 対象者 立科町に土地を所有している者
- 実施方法 被害木の伐倒・くん蒸及び焼却
- 事業目標及び当年度事業量

被害のまん延防止のため、適切に伐倒を行った。 アカマツ : 31 本

①全体計画 (平成 30～令和 4 年度)

年度	H30	R 1	R 2	R 3	R 4
事業量	44 本	32 本	45 本	11 本	31 本
支援金	749 千円	471 千円	749 千円	141 千円	374 千円

②令和 4 年度実績

アカマツ 31 本を伐倒・くん蒸及び焼却



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

松くい虫被害まん延防止対策として、適切に枯損木を処理することで、被害を未然に防ぐ。

(2) 継続性

松くい虫による枯損木は年々増加している状況で、山林以外のアカマツへも被害が拡大していることから、将来にわたり事業を推進していきたい。

(3) 普及性

国庫補助対象とならない、山林以外等の松くい虫被害木の伐倒・くん蒸処理を行うことにより、住民の目に付きやすく、松くい虫被害防除対策への理解が得られる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

広報誌で住民に周知した結果、昨年度より処理本数は多くなった。また、多くの住民に周知され、今後の被害のまん延防止につながると思われる。

(2) 課題

市町村境の山林を中心に松くい虫被害が拡大している。また、住民が居住する地域でも松くい虫による被害が見受けられるが、そこでの倒木はその隣地等への物理的な被害を生む恐れがある。

町外在住者で当町に土地を所有する方の土地管理は深刻な問題であり、管理意識を高めるためにも補助金事業を広く周知する必要がある。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

年度	R3 実績	R4 実績	R5 見込み
事業量	11 本	31 本	40 本

引き続き広く周知をし、被害まん延の防止を図る

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(別記様式第 15 号)

令和 4 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

立科町

No.	事業項目	事業名
1	「木を活かした力強い産業づくり」に関する事業	県産間伐材を用いたベンチの設置事業
事業費 335,500 円 (うち支援金: 323,000 円)		

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

立科町では、林業の低迷等から森林への関心が薄れている。

このことから、当町では林業の成長産業化と森林の適切な管理の両立を図ることを目標としています。

(2) 本事業の目的

県産間伐材を使用しているベンチを設置することで、森林税や間伐材などの身近な林業への関心を高める。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 女神湖周辺及び耕福館前

(2) 対象者 町民及び観光客

(3) 実施方法 県産間伐材をベンチに加工し、県産材の PR を行う。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30～令和 4 年度)

県産間伐材使用ベンチ 10 基設置

②令和 4 年度実績

県産間伐材使用ベンチ 4 基設置



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

県産間伐材利用の促進。森林税活用のPR効果。林業の活性化。

(2) 継続性

効果の普及拡大のため、各観光地からの要望に基づき、今後も各所へベンチを設置することを検討する。

(3) 普及性

立科町各所にある観光地に、県産間伐材使用のベンチを設置することにより、住民や観光客への県産材や森林税の活用について、PRすることができる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

女神湖周辺は観光地であり、耕福館は町民及び町外の方も利用するためPRの効果が期待できる。

(2) 課題

木製品ベンチを屋外に設置することから、腐敗等による事故を防ぐため、定期的な点検が必要。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

引き続き広く周知をし、被害まん延の防止を図る

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

各観光地から要望があり次第、継続を検討する。